広報つるた
編集・発行　鶴田町役場企画観光課
令和4年4月15日発行　第738号

〒038-3595
青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字早瀬200の1
TEL：0173（22）2111　FAX：0173（22）6007
Eメール：tsu_info@town.tsuruta.lg.jp

鶴田町ホームページ
http://www.town.tsuruta.lg.jp/
鶴田町観光ウェブマガジン「メデタイ・ツルタ」
http://www.medetai-tsuruta.jp/

つるた町民ライブラリー

コロナ禍で様々な活動が制限される昨今。この企画では、「ヒト・モノ・コト」を繋げるため、私（地域おこし協力隊：川口）が、鶴田町で活動する「人材＝人財」（個人・企業・団体）をピックアップして「よそ者」目線で人物像を掘り下げ、不定期でご紹介します！今回は鶴田町で生活している高校生です。コロナ禍で生活様式が大きく変化する中で、次代を担う若者が何を思い、町をどのように見ているのかお話を伺いました。

△川口さん（左）と（左から）太田さん、出町さん、三浦さん

VOL.7 「私たちの鶴田町ってこんなところ」

鶴田で生活する高校生
太田　紗愛（さら）さん・出町　聖来（せら）さん・三浦　亜香音（あかね）さん

◆それぞれの簡単な自己紹介をお願いします

太田　鶴田高校2年生で鶴（高）の恩返しプロジェクトのリーダーをしています。

出町　板柳高校2年生です。鶴田町のジュニアリーダー（注：子供達の地域活動をサポートする年少ボランティア）に参加しています。

三浦　五所川原高校2年生です。将来は鶴田町役場に勤めたいと思っています。

◆最近の生活や友達との遊び方、余暇の過ごし方などを教えてください

出町　高校生活が始まってすぐにコロナ禍になり、イベントや学校生活、遊び方が大きく制限されました。

三浦　学校では国際理解研究同好会に所属していて、英語でコミュニケーションをしています。この1年で台湾の学生と英語を使ってリモートで交流する機会が増えています。休みのときは家でYoutubeを見ています。ゲームの実況動画が好きです。

太田　私もYoutubeやネットフリックスなどのサブスクリプション（注：月額定額サービス）の動画を見ることが多いです。

◆将来、鶴田町に住みたいと思いますか？

三浦　地元が好きなので鶴田町役場へ就職したいです。周りの友だちは、進学や就職の都合で地元を離れることは考えても、都会で暮らしたいから地元を離れるという人は多くないように感じています。地元を好きな若い子は多いと思いますよ。

太田　私も鶴田町で暮らしたいです。かぶっちゃいましたが私も鶴田町役場に就職を希望します（笑）。

出町　私は将来、助産師か英語教師になりたいので進学を考えています。将来鶴田町で暮らしたいか、と聞かれるとわかりませんが大好きです。

◆鶴田町に対する印象を教えてください

出町　鶴田町は温かい人が多い気がします。通学時に「おはようございます」とあいさつされることが多いです。あいさつだけでも町の印象が変わるなぁと感じています。

太田　遊び場やバイトがないのは不便だと感じますが、それでも慣れ親しんだ居心地の良さが好きなので、私はずっと鶴田に住んでいたいです。車を運転できるようになれば不便さも感じなくなる気もします。

◆鶴田町がどんな町になればいいと思いますか？

出町　何かこの町で楽しめることが増えたらいいですね。鶴田といえばこれ！みたいな…。それがショッピングなのか、キャンプなのか、何がいいのかはわかりませんが。

三浦　私も交通が不便に感じます。学生が町外に出掛けるにも、もう少し電車やバスの本数があれば楽になると思います。あとは学生が勉強したり気軽に集まれる場所があるといいですね。ちょっとお洒落な図書館やカフェみたいなイメージが理想です。公民館も使えることは知っていますが、公民館に集まって勉強したり何かするイメージはないです。

◆どんなコンテンツがあれば若者世代はもっと町に興味を持つと思いますか？

太田　私たちはステキなお店や興味のあるものは主にInstagramで情報収集します。例えば、Instagramを活用して富士見湖パークをおしゃれなイメージで投稿してPRできると思います。

◆最後に鶴田町でやってみたいことはありますか？

出町　数年前に、ジュニアリーダーとして旧水元小学校（現：歴史文化伝承館）で小学生とキャンプをしたことがあります。肝試しをしたり楽しかったです。やっぱり学校ってワクワクするので、廃校を使ったイベント活用に興味があります。脱出ゲームもいいですね。

太田　学校を使ったイベントを企画するという授業があったのですが、謎解き脱出ゲームの企画が結構人気があったので、私たち世代は結構興味を惹かれます。

出町　英語を使うイベントにも興味があります。小さい頃からフッドリバーとの交流を通して国際交流や英語に親しんできたのもあると思うのですが、他地域に比べて、鶴田町の子供たちは英語に対してハードルが低く、“楽しいもの”だという感覚が強いと思います。コロナ禍で交流が減っているのは残念ですが、「鶴田町の強み」かなと感じています。

三浦　保育園や小学校でも国際交流員の先生と交流していたので、英語は自分たちにとっては日常です。英語を使ったイベントが出来たら盛り上がるかもしれませんね。

編集後記

高校生たちの話を聞いて感じたことは、しっかりアンテナを張っておかないと若い世代と自分たちの認識に大きなギャップが生じてしまうということです。余暇の過ごし方やSNSの使い方など、何となく想像しているものと合致する部分もあれば違うところもありました。そして、若者はどんなことに満足したり不満があるのか、直接聞けたことは大きな収穫でした。もう一つ感じたことは、小さい頃からのあいさつや英語に関する鶴田町の人づくりの方針が、若い世代に確かに浸透しているということです。あいさつや英語が鶴田のカラー（特色）であることは、町外から来た自分にはとても強く感じました。今回聞いた話は今後の活動の大きなヒントになりました。

青森県 鶴田町